

## やさしいばあちゃん

三浦瑞季

私の家の庭は、いつも季節の花や野菜でにぎやかだ。「お口を開けてごらん。」

と、汗をかきながら畑から急いで家に入り、ばあちゃんは、初物のトマトを私と兄の口の中へポンツと入れてくれた。目が覚めるほどの甘さに私がおどろいていると

「初物や、東向いて笑い!!」

ばあちゃんは、畑でとれた野菜を今年初めて口にする時にいつもこのセリフをいう。私たちが東を向いて笑ったのを見届けると、笑顔でまた畑へともどつていった。

この言い伝えは、太陽のめぐみや旬の食べ物をいただけることに感謝するという意味があるそうだ。初物＝旬のものは、栄養価が高く長生きできるという。ばあちゃんは、いつも私たちに最初に初物をくれるけど、この話を知って、初物こそばあちゃんに初めに食べてもらいたいと私は思った。

「次にとれた初物は、ばあちゃんが最初に食べてよ。」

と私が言うのと、

「ばあちゃんは、ええよ。最後でええ。うれしいことは、みんなにプレゼントしたいねん。ありがとう。」

とニコニコして今日とれた豆のすじを取り続けた。

ばあちゃんは、いつもやさしい。一緒に暮らしているわけではないけれど、私がさみしくなりそうな時、いつもそばにいてくれる。

私が5歳の頃、兄が入院した。母も兄に付きそわなければならなかった。そんな時、そばにいてくれたのは、やっぱりばあちゃんだった。母に会いたくなくなってただだをこね、「ばあちゃんはやだ、お母さんがいい。」

と言った私をだっこしてくれたり、気分転換に海沿いをドライブしてくれた。病室から帰ってきた母に、

「瑞季はずっとええ子にしてみた。」

と話していたのも覚えていいる。私が少しのさみしさだけですんだのも、ばあちゃんのおかげだ。

ばあちゃんは、自分のことより家族のことを一番に考えている人だ。愛情とか、やさしさの意味を私は身を持って感じていいる。

ばあちゃん、いつもありがとう。もう少し大人になって、私が車の免許を取ったら、浜名湖へドライブしよう。ばあちゃんの大好きなうな重をごちそうするよ。長生きしてね。